

地域別構想

1 地域別構想の趣旨

地域別構想は、全体構想に示された3つの計画におけるまちづくりの方針などを踏まえ、地域のまちづくりの目標や、行政が主体的に取り組む地域づくりの方針及び市民と行政が協力して取り組む地域づくりの方針を明らかにするものです。

地域別構想の策定にあたっては、地域別ワークショップ※を開催し、地域の魅力や問題点及びまちづくりアイデアなどの抽出を行いました。この地域別ワークショップの意見も参考として反映した方針として、掲載しています。

※ワークショップ：専門家の助言を受けながら、参加者が自ら参加・体験し、共同で何かを学び合ったり創り出したりする場のこと

2 地域の設定

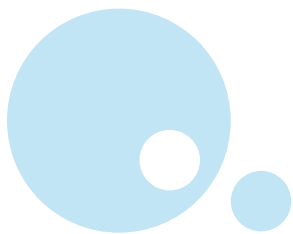
本計画の地域別構想を策定するにあたり、以下の考え方に基づき地域を設定します。

- ①地域別構想は、地域の特性やまちづくりを共有できる範囲に設定することが望ましく、共通の土地利用の課題を有する地区を基本とします。
- ②持続的なまちづくりを進めるために、地域のまとまりや活動の母体が形成しやすい自治組織やコミュニティを単位として小学校区を基本とします。

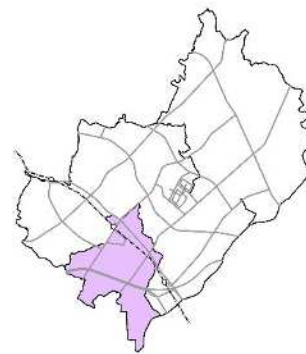
以上の考え方より、次の5つの地域を設定します。

- 豊明小学校区
- 中央小学校区
- 沓掛小学校区
- 二村台・大宮・三崎小学校区
- 館・栄小学校区





豊明小学校区



豊明市の南西部に位置し、阿野町・前後町・栄町・間米町の一部が含まれます。

交通面では、本市の玄関口となる名鉄前後駅（1日あたり乗降客数約1.9万人/日）、（都）国道1号東線や、豊明インターのある（都）伊勢湾岸道路、（都）名四国道・名豊道路などの広域幹線道路に加え、市内の軸として、（都）桜ヶ丘沓掛線が骨格を形成し、前後駅周辺と住宅地、周辺都市を結ぶ重要な交通軸となっています。

名鉄前後駅前に南部公民館の公共施設や生活利便施設がある一方、住宅地と駐車場などの低未利用地が混在しています。

歴史・文化面では旧東海道沿いに位置し、国指定史跡「阿野一里塚」や、約400年前から続く「大脇の梯子獅子」の神事で有名な大脇神明社など、歴史文化が継承されています。

写真

写真

1 豊明小学校区の現状

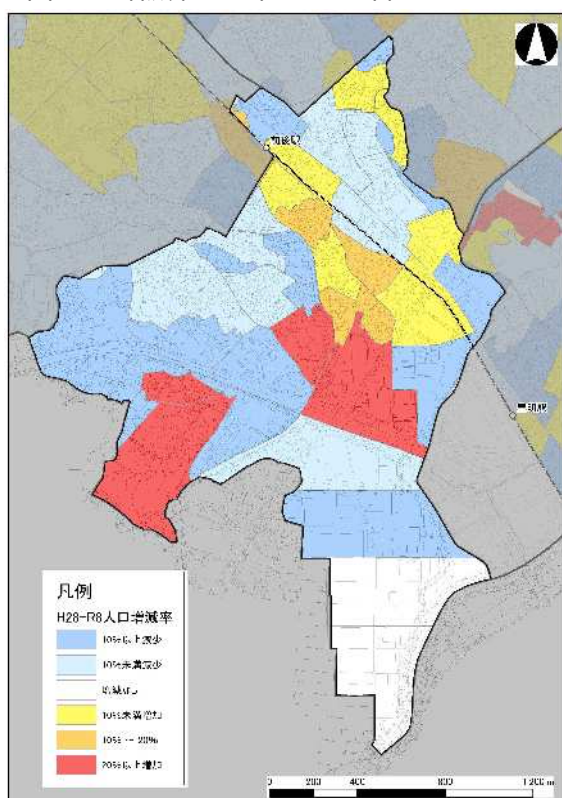
- ・ 2016 年と 2026 年の人口の変化をみると、前後駅周辺で大きく増加している一方で、地域全体では人口が減少しており、(都)伊勢湾岸道路沿いの集落を中心に大きく減少しています。市街化調整区域の一部では、人口が増加傾向です。高齢人口割合は 23.2%と市平均 25.1%と比較し、低い状況です。年少人口割合は 10.6%と市平均 10.3%と同程度です。
- ・ 住宅地が主体の土地利用となっていますが、駅周辺には平面駐車場がまとまってみられ、(都)国道 1 号東線の沿道や前後駅周辺などに商業施設の立地がみられます。

表・地区の人口状況

総人口 (2016)	総人口 (2026)	人口増減数 (2016～2026)	高齢人口割合 (2026)	年少人口割合 (2026)
6,329	6,218	-111	23.2%	10.6%

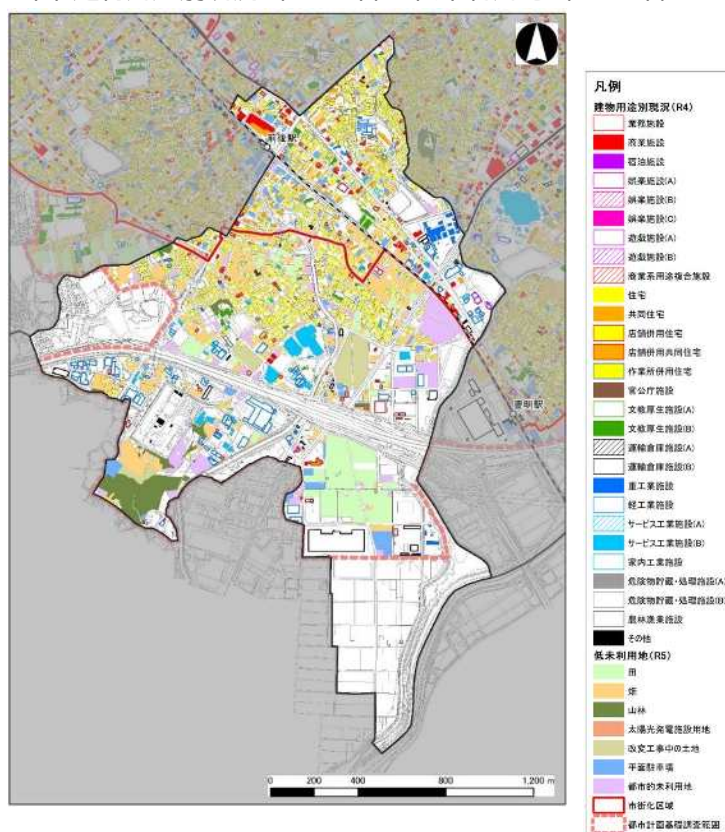
※高齢人口:65歳以上人口、年少人口0~14歳人口

図 人口増減(2016 年～2026 年)



資料：住民基本台帳

図 建物用途別現況（2022 年）・低未利用地（2023 年）



資料：都市計画基礎調査

2 将来都市構造における地域の位置づけ

- ・ 前後駅周辺の交通結節機能の強化を図ることに加え、消費ニーズや立地特性を踏まえた商業・業務等の都市機能の集積を促すとともに、市民の自発的なまちづくり活動を後押しすることで、本市の玄関口にふさわしい活気と魅力ある拠点形成を図ります。
- ・ また、居住ニーズに対応した多様な住宅の供給を促進し、まちなか居住を推進します。

3 地域づくりの目標

まちづくりの目標	地域づくりの方向性
①住み続けたいと思える日常が快適で機能的な都市	・前後駅や幹線道路の広域交通のポテンシャルを活かした利便性の高い住宅地の形成
②交流が生まれ活力が持続する都市	・前後駅周辺のにぎわい創出 ・豊明 IC や幹線道路周辺の産業用地の形成
③災害に対し強くしなやかで、安全・安心に暮らせる都市	・災害に脆弱な市街地の改善 ・境川の洪水浸水への対応
④まちの魅力を発揮・向上させる質の高い緑づくり	・身近な公園の改修・維持管理 ・歴史文化資源の活用

本地域は、暮らしと交通の中心拠点に位置づける前後駅が立地しており、交通利便性の高い地域です。また、阿野一里塚をはじめとした歴史文化資源も点在しています。地域別ワークショップでは、地域のまちづくりの方向性として、交通利便性と歴史資源を生かした「人と歴史の交差点～歴史を残し発展するレインボータウンとよあけ～」が挙げられました。

こうした地域特性を踏まえ、前後駅周辺における交通結節機能を活かした交流の創出と、歴史文化資源の保全・活用を図りながら、地域全体の魅力と活力を高めていくこととし、以下の地域づくりの目標を設定します。

地域づくりの目標

前後駅を中心ににぎわいが広がり、歴史文化が息づくまち

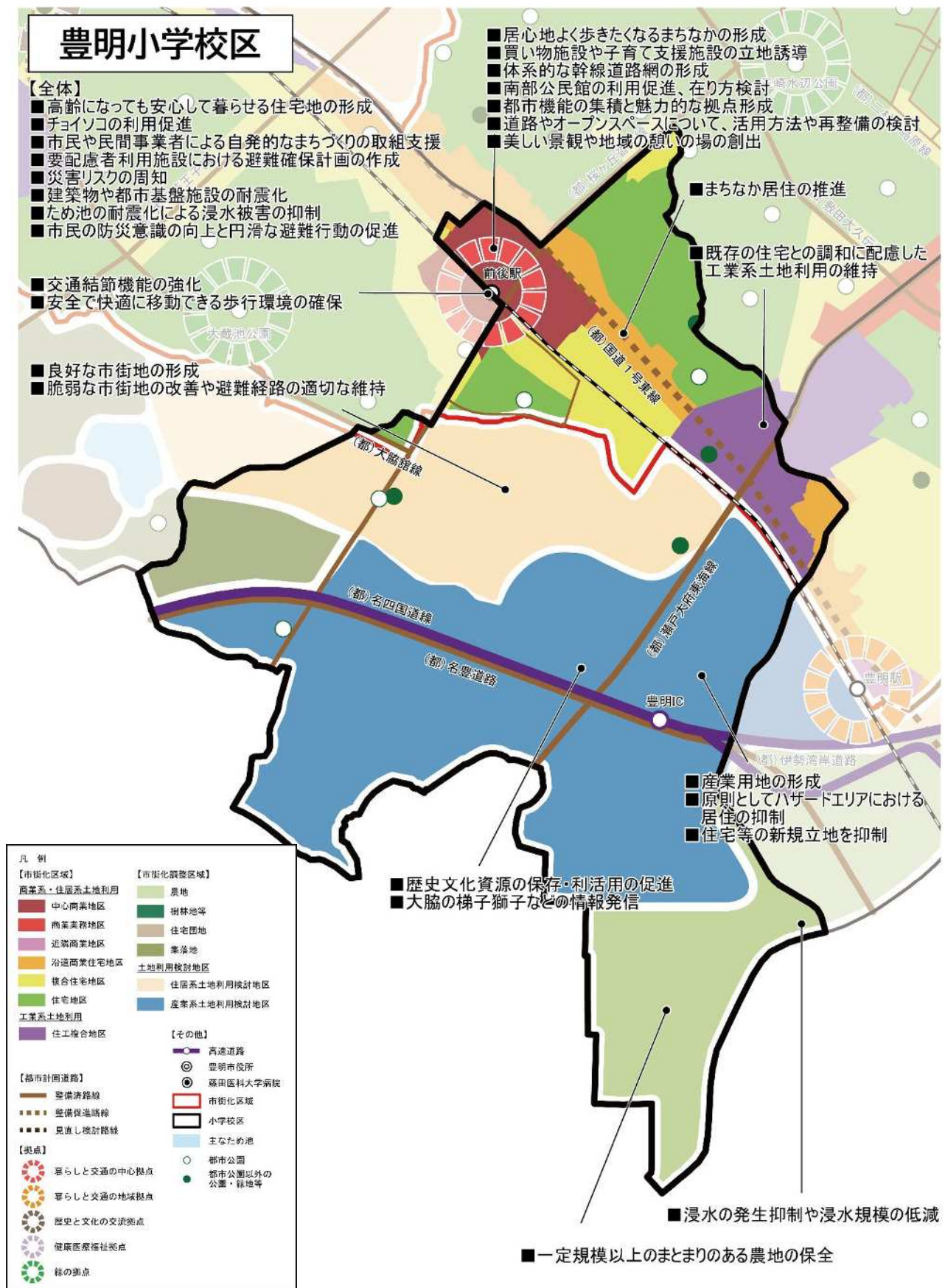
4 地域づくりの方針・主な取組

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
土地利用	■(都)瀬戸大府東海線及び(都)国道1号東線沿いの沿道住宅地区においては、利便性の高い住宅地の形成を図り、まちなか居住を推進します。※ ■前後駅周辺では、駅前と連動した居心地よく歩きたくなる(ウォーカブルな)まちなかの形成を図ります。※ ⇒公共施設や公共空間の使い方や整備を検討します。 ■前後駅周辺には、利用者ニーズに対応した買い物施設や子育て支援施設の立地を誘導します。 ⇒市街地再開発事業や優良建築物等整備事業、共同建替えなどの整備手法の検討を行います。 ⇒店舗立地やにぎわいの創出に向け、空き家・空き店舗を含む既存ストックの有効活用を推進します。※※ ■高齢者の公共交通沿線への居住誘導や、必要となる介護施設の誘致などにより、高齢になっても安心して暮らせる住宅地の形成を図ります。 ■工場や物流施設等と住宅が併存する工業地においては、環境配慮のルールづくりなどにより、住む人が住みやすく、働く人が働きやすい土地利用を維持します。 ■豊明 IC や主要幹線道路に近接する地区において、周辺の居住環境や防災面等に配慮し、交流施設などが立地する産業用地の形成を図ります。 ⇒主要幹線道路の沿道では、道路利用者だけでなく地域住民の生活利便性の確保や地域活性化の拠点となる施設の立地を検討します。 ■南部に広がる一定規模以上のまとまりのある農地を保全します。

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
都市施設整備	■前後駅では、鉄道とバス、自動車、自転車等の相互の乗り継ぎ利便性を高める交通結節機能の強化を図ります。※ ⇒駐輪施設の充足状況を調査し、駐輪施設の設置を検討します。 ■前後駅周辺では、安全で快適に移動できる歩行環境を確保します。※ ⇒歩道の連続性を確保するとともに、歩行者の通行に支障が生じている路線の整備により円滑な通行を確保します。 ■前後駅周辺では、にぎわいと都市の活力を引き出す幹線道路網の形成を図ります。※ ⇒幹線道路の未整備区間の整備と整備済み区間の計画的な維持管理を関係機関に働きかけます。 ■既存のバス路線では対応できない需要に対しては、引き続き、現在運行しているデマンド型交通のチョイソコの利用者ニーズに合わせたサービスの提供や利用促進を図ります。※ ■前後駅周辺の活性化に向けて、南部公民館の利用促進を図るとともに、周辺のまちづくりと連携しつつ、施設の在り方について検討します。
市街地整備	■前後駅周辺において、都市機能の集積を推進し、多様な目的で訪れる、もしくは目的がなくとも気軽に立ち寄るような魅力的な拠点形成を図ります。※ ⇒市街地再開発事業や優良建築物等整備事業などの整備手法と実現に向けた課題等の検討を行います。 ■前後駅周辺では、居心地がよく歩きたくなる（ウォーカブルな）まちなかの形成に向けて、道路やオープンスペースについて、活用方法の見直しや再整備を検討します。※ ⇒公共施設や公共空間の使い方や整備を検討します。 ■栄町においては、地域の特性にあった良好な市街地の形成を図ります。 ⇒建物の機能更新にあわせた狭あい道路の解消を進めます。
歴史文化・景観	■前後駅周辺の公共空間を花で彩り、美しい景観や地域の憩いの場を創出します。 ⇒花のまちづくりに関する団体への助成や市民の花による景観づくりの意識を醸成し、花のまちづくりを進めます。 ■大脇神明社をはじめとする歴史文化資源が点在しています。これらの歴史文化資源の保存及び利活用を促進します。※ ■多様な媒体により、大脇の梯子獅子などに関する情報発信を進めます。※ ⇒情報発信やイベント等の交流事業を実施します。

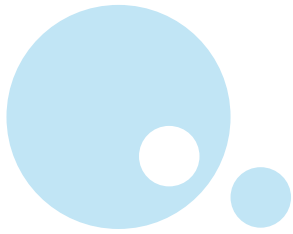
分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
都市防災	■市街化調整区域（居住誘導区域外）における浸水想定区域には、原則として居住を誘導しないこととします。 ■中長期的な河川改修や内水浸水対策などにより、浸水の発生抑制や浸水規模の低減を図ります。 ■浸水に脆弱な市街地の改善や避難経路の適切な維持に努めます。 ■浸水想定区域において、市民の確実な避難につながる取組を進めます。特に、要配慮者利用施設については、避難確保計画の作成や訓練の実施などを働きかけます。※ ■安全性の高い市街地への居住誘導を図るとともに、土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域では、住宅等の新規立地を抑制します。 ■土砂災害特別警戒区域等に立地する住宅の住民に対して、重点的に災害リスクの周知を図るとともに、大雨の発生時には、早期の情報発信などにより、確実な避難につながる取組を進めます。 ■老朽住宅の更新や建築物の耐震化を促進するとともに、道路などの都市基盤施設の耐震化を進めることで、地震に脆弱な市街地の改善を図り、災害時における避難の実現性や緊急輸送機能の確保を図ります。 ■ため池の耐震化を進め、地震に伴う堤体の損傷や決壊による浸水被害の発生抑制を図ります。 ■市民に対して避難生活に備えた備蓄や非常時の持出品の準備を促すとともに、地震発生時の避難場所や避難経路の周知や防災訓練の実施などにより、市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進を図ります。※
協働まちづくり	■市民や民間事業者による自発的なまちづくりの取組を支援します。※ ⇒市民や民間事業者による社会実験等を支援します。また、エリアマネジメントやエリアプラットフォーム等を活用し、エリアの将来像や実施方策の検討を進めます。 ⇒とよあけ健康ウォーキングのウォーキング推進員への支援を継続します。 ⇒自主防災組織との連携、支援を推進します。

5 地域づくりの方針図



(参考) 地域別ワークショップ結果のまとめ





中央小学校区



豊明市の中央部に位置し、新田町・大久伝町、阿野町と三崎町の一部が含まれます。豊明市役所や総合福祉会館などの公共施設が立地し、行政・福祉機能と住宅機能が集積した地域です。

交通面では、名鉄名古屋本線の豊明駅（1日あたり乗降客数約4.6千人/日）があり、区域内外を結ぶ幹線として（都）国道1号東線や（都）名四国道、（都）名豊道路などの広域幹線道路に加え、（都）瀬戸大府東海線などの都市計画道路が配置されています。このような広域的な交通利便性が高いことから、日本最大の鉢物市場である「愛知豊明花き地方卸売市場」が立地するなど、物流や製造業が盛んな地域です。

自然環境面では、中央公園や平地公園などの都市公園が点在しています。

歴史・文化面では、江戸時代の儒学者であり庄屋でもあった伊藤両村の出生地があります。伊藤両村は私塾を開いて多くの人材を育成し、地域社会の発展に寄与した人物であり、現在も伊藤両村塾址などが残り、歴史・文化資源が豊かな地域です。

写真

写真

写真

1 中央小学校区の現状

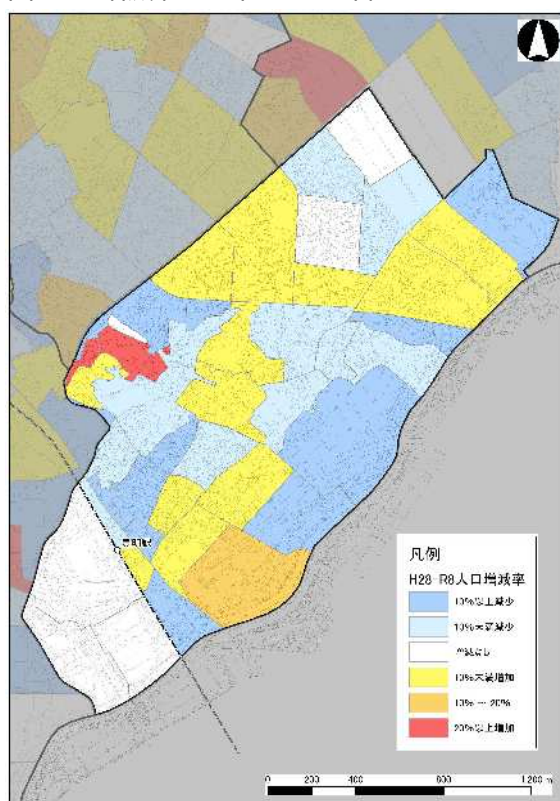
- ・ 2016 年と 2026 年の人口の変化をみると、豊明駅周辺を中心に増加している地区がみられますが、市街化調整区域をはじめ、地域全体では人口が減少しています。高齢人口割合は 23.2%と市平均 25.1%と比較し、低い状況です。年少人口割合は 10.0%と市平均 10.9%と比較し、低い状況です。
- ・ 駅周辺は住宅地が主体となっており、幹線道路沿いは一部で工業地、(都)瀬戸大府東海線及び(都)敷田大久伝線の沿道を中心に商業施設が立地しています。

表・地区の人口状況

総人口 (2016)	総人口 (2026)	人口増減数 (2016～2026)	高齢人口割合 (2026)	年少人口割合 (2026)
13,986	13,679	-307	23.2%	10.0%

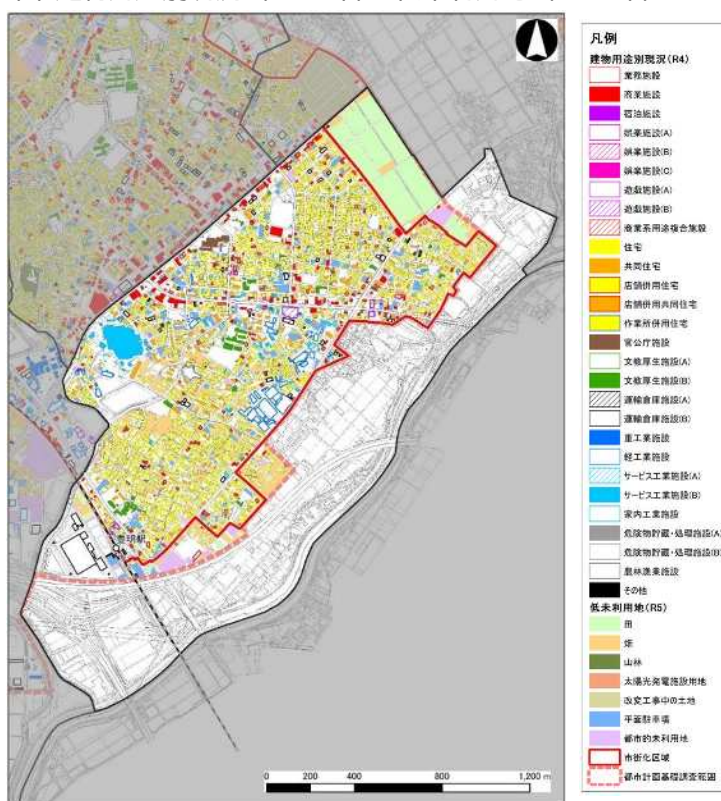
※高齢人口:65歳以上人口、年少人口0～14歳人口

図 人口増減(2016 年～2026 年)



資料：住民基本台帳

図 建物用途別現況(2022 年)・低未利用地(2023 年)



資料：都市計画基礎調査

2 将来都市構造における地域の位置づけ

- ・ 行政・サービス機能が集積する豊明市役所周辺は、暮らしと交通の中心拠点として既存施設の有効活用を進め、市民の利便性を向上させるとともに、商業、医療、福祉等の多様な都市機能の集積を高め、交流によるにぎわいの創出を図ります。
- ・ また、居住ニーズに対応した多様な住宅の供給を促進し、まちなか居住を推進します。

3 地域づくりの目標

まちづくりの目標	地域づくりの方向性
①住み続けたいと思える日常が快適で機能的な都市	・豊明駅や生活利便施設を利用できる、利便性の高い住宅地の形成と受け皿の確保
②交流が生まれ活力が持続する都市	・豊明駅周辺のにぎわい創出 ・(都)伊勢湾岸道路周辺などでの産業用地の形成
③災害に対し強くしなやかで、安全・安心に暮らせる都市	・阿野町における災害に脆弱な市街地の改善 ・市役所周辺での、浸水対策された市街地の形成 ・境川の洪水浸水のリスクが高い区域での居住抑制 ・内水浸水被害軽減対策
④まちの魅力を発揮・向上させる質の高い緑づくり	・中央公園など身近な公園の魅力向上

本地域は、暮らしと交通の中心拠点到位置づける市役所および暮らしと交通の地域拠点の豊明駅が立地しており、交通利便性の高い地域です。一方、豊明駅周辺では生活利便施設や、にぎわいが不足しており、境川からの浸水が想定される区域が広く分布しています。地域別ワークショップでは、地域のまちづくりの方向性として豊明駅を中心とした「2040 年へつなぐ 歩いて楽しい都市型中央区!!」が挙げられました。

こうした地域特性を踏まえ、豊明駅周辺における交通結節機能を活かした生活利便性の向上と安全な居住環境を確保していくこととし、以下の地域づくりの目標を設定します。

地域づくりの目標

豊明駅を中心とした便利で安全な住環境を育むまち

4 地域づくりの方針・主な取組

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
土地 利用	■(都)瀬戸大府東海線沿道においては、生活利便施設の立地を促進し、周辺に立地する既存の行政・サービス機能とともに、市民の暮らしやすさの向上を図ります。 ■高齢者の公共交通沿線への居住誘導や、必要となる介護施設の誘致などにより、高齢になっても安心して暮らせる住宅地の形成を図ります。 ■豊明駅や市役所周辺において、自然環境や防災面等に配慮した上で、多様な居住ニーズに対応した住宅地の形成を図ります。 ■(都)瀬戸大府東海線及び(都)国道1号東線沿いの沿道住宅地区において、利便性の高い住宅地の形成を図り、まちなか居住を推進します。 ■(都)国道1号東線と(都)瀬戸大府東海線が交差する周辺の工業地では、工業系主体の土地利用を維持するとともに、環境負荷の少ない先端産業関連の企業立地を誘導する。 ■豊明ICや主要幹線道路に近接する地区において、地域資源を活かした交流施設などが立地する産業用地の形成を図ります。※ ⇒地域活性化の拠点となる施設の立地を検討します。 ■南部や南東部に広がる一定規模以上のまとまりのある農地を保全します。
都市 施設 整備	■豊明駅周辺やバス路線沿線への居住誘導を推進するなど、公共交通の利用増進を図ります。 ■(都)国道1号東線をはじめとする幹線道路網の形成にあたっては、現在の都市計画道路網の構築を進めるものとします。 ⇒未整備区間の整備と整備済み区間の計画的な維持管理を関係機関に働きかけます。

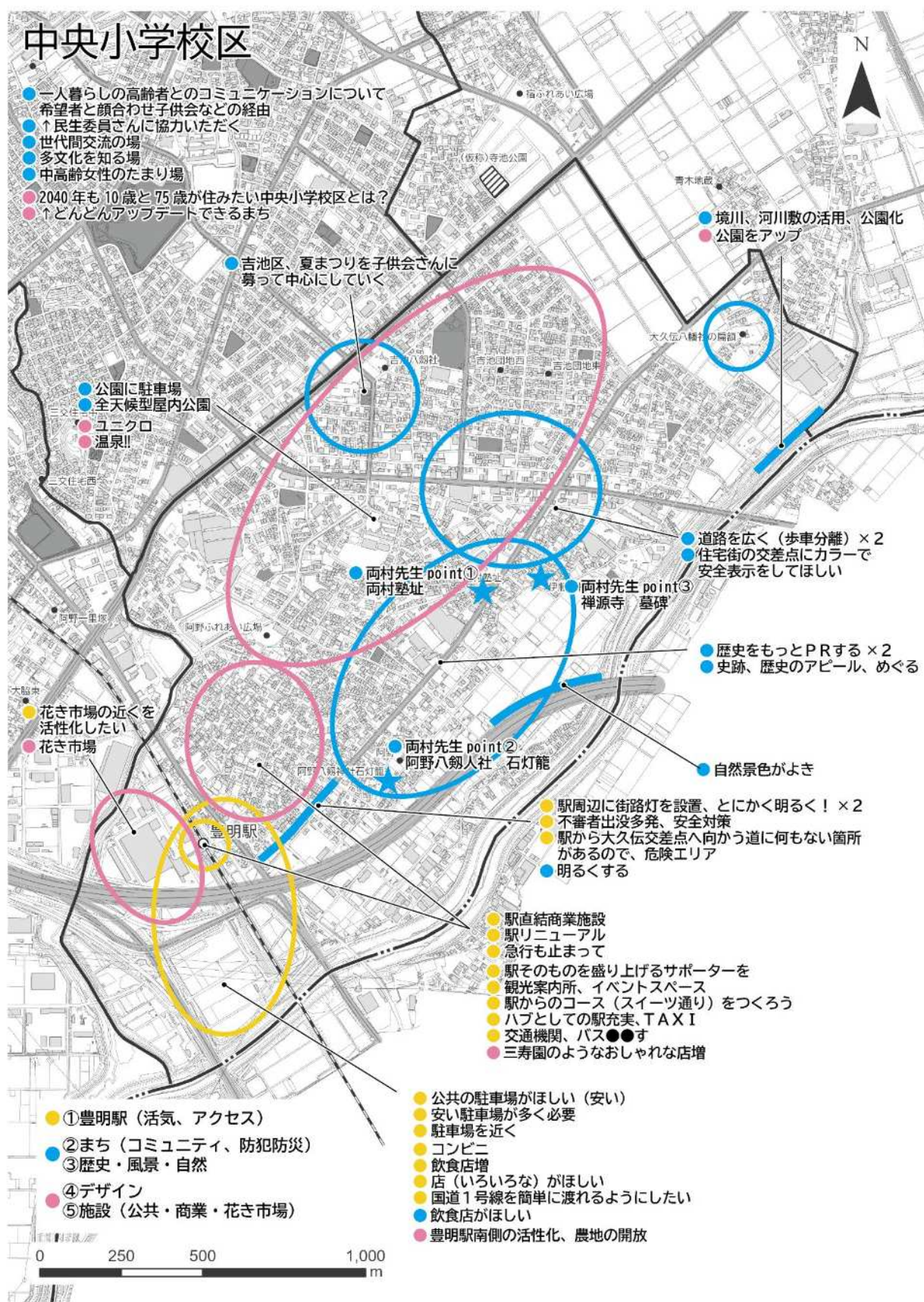
分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
市街地整備	■市役所を核とし、都市機能が集積する地区において、商業・医療・福祉施設など日常的な生活利便施設等の立地誘導をさらに進めます。 ■市役所周辺においては、既存施設の複合化・多機能化を進め、商業・医療・福祉等の多様な都市機能の集積する都市拠点の形成を図ります。 ⇒既存の公共施設について、複合化・多機能化などを進め、都市機能の集積を図ります。 ■豊明駅周辺では、現在の公共交通体系を維持し、利用しやすい環境の確保を図ります。加えて、日常的な生活サービス施設の維持や立地の誘導により、地域住民の暮らしを支える拠点の形成を図ります。※ ■拠点を中心としたにぎわいの創出に向けて、駅や駅周辺の空間の利活用について検討します。※ ⇒豊明駅南北連絡橋の改修を進めます。 ■阿野町では、地域の特性にあった良好な市街地の形成を図ります。また、安全な市街地のあり方を検討します。※ ⇒建物の機能更新にあわせた狭あい道路の解消や地区計画制度の活用による道路・公園等の都市基盤施設の整備を進めます。
歴史文化・景観	■愛知豊明花き地方卸売市場を有していることから、公共空間を花で彩り、美しい景観や地域の憩いの場を創出します。※ ⇒花のまちづくりに関する団体への助成や市民の花による景観づくりの意識を醸成し、花のまちづくりを進めます。 ⇒愛知豊明花き地方卸売市場周辺の活性化方策について検討します。※※

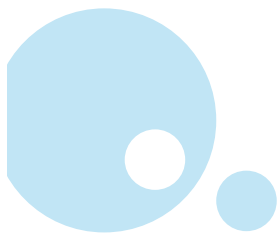
分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
都市防災	■市街化調整区域（居住誘導区域外）における浸水想定区域には、原則として居住を誘導しないこととします。 ■中長期的な河川改修や内水浸水対策などにより、浸水の発生抑制や浸水規模の低減を図ります。 ■浸水に脆弱な市街地の改善や避難経路の適切な維持に努めます。 ■市役所や病院など、都市活動や防災上重要な拠点施設については、災害発生後も機能を持続できるよう、必要な対策を実施します。 ■浸水想定区域において、市民の確実な避難につながる取組を進めます。特に、要配慮者利用施設については、避難確保計画の作成や訓練の実施などを働きかけます。 ■老朽住宅の更新や建築物の耐震化を促進するとともに、道路などの都市基盤施設の耐震化を進めることで、地震に脆弱な市街地の改善を図り、災害時における避難の実現性や緊急輸送機能の確保を図ります。 ■ため池の耐震化を進め、地震に伴う堤体の損傷や決壊による浸水被害の発生抑制を図ります。 ■市民に対して避難生活に備えた備蓄や非常時の持出品の準備を促すとともに、地震発生時の避難場所や避難経路の周知や防災訓練の実施などにより、市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進を図ります。
協働まちづくり	■市民や民間事業者による自発的なまちづくりの取組を支援します。※ ⇒花のまちづくりに関する団体への助成や市民の花による景観づくりの意識を醸成し、花のまちづくりを進めます。(再掲) ⇒とよあけ健康ウォーキングのウォーキング推進員への支援を継続します。 ⇒自主防災組織との連携、支援を推進します。

5 地域づくりの方針図



(参考) 地域別ワークショップ結果のまとめ





沓掛小学校区



豊明市の北東部に位置し、沓掛町を中心とした名古屋市緑区に隣接する地域であり、緑豊かな自然環境をあわせ持つ地区です。

交通面では、(都)瀬戸大府東海線や、平針街道と呼ばれる(都)国道1号東線を補完し、刈谷スマートインターチェンジへの重要なアクセス道路となる(都)名古屋岡崎線が現在、整備中です。これらの交通条件を背景に、流通業務施設や工業系土地利用が進みつつあります。

公共施設としては、豊明市勅使会館や勅使グラウンドが立地し、スポーツ・交流の拠点として活用されています。

自然環境面では、市指定天然記念物「大狭間湿地」は東海丘陵要素の接点に位置し、絶滅危惧種を含む多くの希少な動植物が生育する都市近郊に残る自然遺産となっています。また、本市に自生する赤い花をつける県指定天然記念物「豊明のナガバノイシモチソウ」は、日本固有の新種で非常に珍しく、他の「ナガバノイシモチソウ」とも異なり、*toyoake* を冠した学名がつけられています。

さらに、二村山緑地は貴重な動植物が生息する自然環境と豊かな眺望を誇る景勝地があり、市を象徴する都市近郊の里山となっています。さらに、地区内には優良な農地や一定規模以上のまとまりのある農地が広がり、JAの産直所があるなど市内の地域農業の中心地です。また、勅使池を中心とした勅使水辺公園が立地し、緑豊かな環境となっています。

歴史・文化面では沓掛城址をはじめ、鎌倉街道に関連する遺構や寺社が点在し、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有する地域です。



1 沓掛小学校区の現状

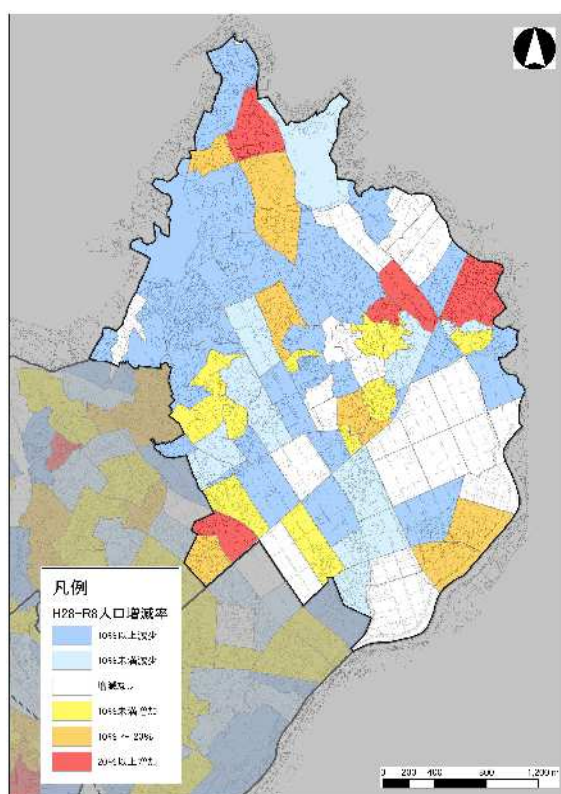
- ・ 2016 年と 2026 年の人口の変化をみると、市街化区域やその縁辺、幹線道路沿道で地区がみられますが、地域全体では人口が減少しています。高齢人口割合は 28.1%と市平均 25.1%と比較し、高い状況です。年少人口割合は 10.2%と市平均 10.9%と比較し、低い状況です。
- ・ 田や畑、山林が広がっており、沓掛町小廻間などの一部に住宅団地や集落地があります。
- ・ 沓掛町荒井などの幹線道路沿いでは商業施設、沓掛町豊山などには工業施設の立地がみられます。

表・地区の人口状況

総人口 (2016)	総人口 (2026)	人口増減数 (2016～2026)	高齢人口割合 (2026)	年少人口割合 (2026)
7,842	7,607	-235	28.1%	10.2%

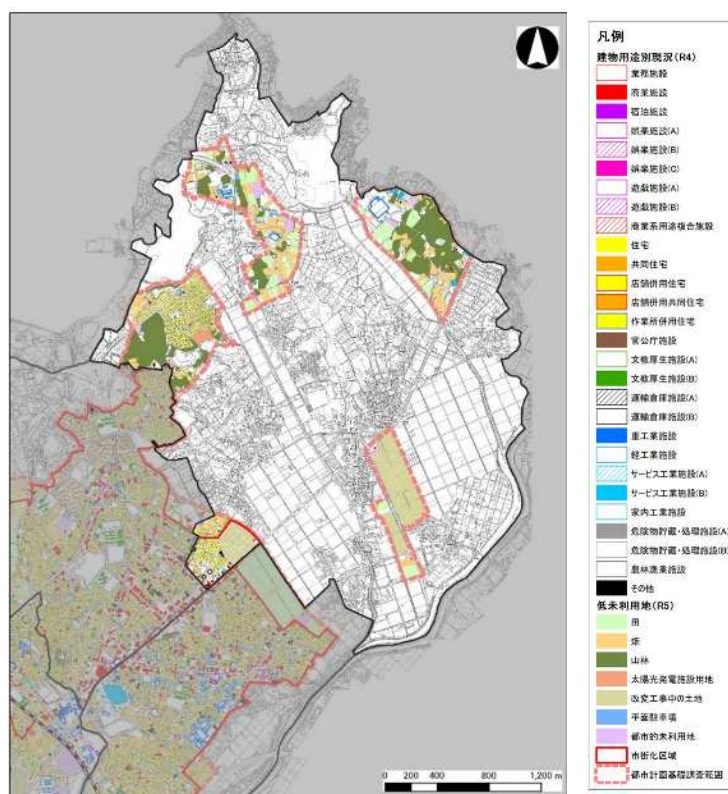
※高齢人口:65歳以上人口、年少人口0～14歳人口

図 人口増減(2016 年～2026 年)



資料：住民基本台帳

図 建物用途別現況(2022 年)・低未利用地(2023 年)



資料：都市計画基礎調査

2 将来都市構造における地域の位置づけ

- ・現在の土地利用を基本としながら、周辺の自然環境と調和したゆとりある居住環境の維持および災害安全性の向上を図ります。
- ・勅使水辺公園・大狭間湿地・二村山緑地は、本市を特徴づける公園・緑地であり、市民とともに緑を育み、積極的な緑の保全、創出、活用を推進する緑の拠点として位置づけられています。

3 地域づくりの目標

まちづくりの目標	地域づくりの方向性
①住み続けたいと思える日常が快適で機能的な都市	・住宅団地や集落地における良好な居住環境の保全 ・高齢者福祉施設など必要となる機能の確保
②交流が生まれ活力が持続する都市	・(都)名古屋岡崎線沿道の地域資源を活かした交流施設などが立地する産業用地の形成 ・農業体験の実施や農業振興の推進
③災害に対し強くしなやかで、安全・安心に暮らせる都市	・境川の洪水浸水の高リスクが高い区域での居住抑制、避難対策 ・災害に脆弱な市街地の改善 ・洪水浸水を抑制する農地の維持
④まちの魅力を発揮・向上させる質の高い緑づくり	・優良農地等や二村山緑地、大狭間湿地など市街地近郊の貴重な緑地の保全 ・勅使水辺公園の利活用 ・沓掛城址など歴史文化資源の活用

本地域は、勅使水辺公園・大狭間湿地・二村山緑地・優良農地等の公園、緑地が多く残り、沓掛城址など歴史資源も立地する地域です。また、(都)名古屋岡崎線が整備中であり、広域交通の利便性の向上することが期待されています。

地域別ワークショップでは、地域のまちづくりの方向性として自然と暮らしが調和した「自然も心も豊かな 出かけやすいまち 沓掛」が挙げられました。

こうした地域特性を踏まえ、自然豊かな環境の中で歴史文化資源の保全を図りながら、その活用により新たな交流を生み出していくこととし、以下の地域づくりの目標を設定します。

地域づくりの目標

緑と歴史を活かし、ゆとりある暮らしと交流が生まれるまち

4 地域づくりの方針・主な取組

分野	■方針 ⇒主な取組 （地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※）
土地利用	■勅使台団地等において、現在の土地利用を維持・改善し、良好な居住環境を保全していきます。 ⇒地区計画に基づき、良好な居住環境を保全する一方、社会環境等の変化に応じて地区計画の見直しを検討します。 ■必要となる介護施設の誘致などにより、高齢になっても安心して暮らせる環境の確保を図ります。※ ■境川からの浸水が想定される災害リスクの高い集落地については、新規住宅の立地を抑制するとともに、市街化区域（居住誘導区域）へ居住を誘導します。 ⇒立地適正化計画に基づき、市街化調整区域から市街化区域（居住誘導区域）へ居住を誘導します。 ■地区内に広がる優良な農地や一定規模以上のまとまりのある農地を保全します。 ⇒「田んぼダム」など水田の雨水流出抑制を活用した取組を進めます。 ■主要幹線道路に近接する地区において、周辺の居住環境や防災面等に配慮し、交流施設などが立地する産業用地の形成を図ります。

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
都市施設整備	■(都)大根若王子線をはじめとする幹線道路網の形成にあたっては、現在の都市計画道路網の構築を進めるものとします。ただし、市街化調整区域などで長期間未着手となっている路線や区間については、必要に応じて見直しを検討します。※ ⇒主要幹線道路を補完する幹線道路のうち、未整備区間を有する(都)大根若王子線、(都)桜ヶ丘沓掛線の整備を進めます。 ⇒(都)桜ヶ丘沓掛線(内山地区)の整備にあわせ、関係する周辺道路の整備など、渋滞対策について検討します。 ■現在運行しているデマンド型交通のチョイソコの利用者ニーズに合わせたサービスの提供や利用促進を図ります。 ■市指定天然記念物「大狭間湿地」は希少な動植物の生息・生育地となっており、後世に残していくため、保全活動や環境学習を進めていきます。 ⇒市民・市民団体との協働により保全活動を実施します。 ■境川・猿渡川流域等については、総合的な治水対策を実施します。 ⇒境川・猿渡川流域水害対策協議会への参画により、河川整備等の治水対策を推進します。 ■勅使池や若王子池は、防災対策池としての役割を担うほか、良好な都市景観の維持、野鳥等の生物の貴重な生息地としての保全、市民の健康増進や憩いの場となる親水空間として活用を図っていきます。※ ⇒ため池の堤防決壊による水害を防止するため、耐震化を進めます。
歴史文化・景観	■沓掛城址をはじめ、歴史文化資源が点在しています。これらの歴史文化資源の保存及び利活用を促進します。 ⇒市内の歴史文化資源の保存及び活用を推進します。

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
都市防災	■市街化調整区域（居住誘導区域外）における浸水想定区域には、原則として居住を誘導しないこととします。 ■中長期的な河川改修や内水浸水対策などにより、浸水の発生抑制や浸水規模の低減を図ります。 ■浸水に脆弱な市街地の改善や避難経路の適切な維持に努めます。 ■浸水想定区域において、市民の確実な避難につながる取組を進めます。特に、要配慮者利用施設については、避難確保計画の作成や訓練の実施などを働きかけます。 ■安全性の高い市街地への居住誘導を図るとともに、土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域では、住宅等の新規立地を抑制します。 ■土砂災害特別警戒区域等に立地する住宅の住民に対して、重点的に災害リスクの周知を図るとともに、大雨の発生時には、早期の情報発信などにより、確実な避難につながる取組を進めます。 ■老朽住宅の更新や建築物の耐震化を促進するとともに、道路などの都市基盤施設の耐震化を進めることで、地震に脆弱な市街地の改善を図り、災害時における避難の実現性や緊急輸送機能の確保を図ります。 ■ため池の耐震化を進め、地震に伴う堤体の損傷や決壊による浸水被害の発生抑制を図ります。 ■市民に対して避難生活に備えた備蓄や非常時の持出品の準備を促すとともに、地震発生時の避難場所や避難経路の周知や防災訓練の実施などにより、市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進を図ります。
協働まちづくり	■市民や民間事業者による自発的なまちづくりの取組を支援します。 ⇒とよあけ健康ウォーキングのウォーキング推進員への支援を継続します。 ⇒モデル散歩コースを検討します。※※ ⇒農業体験の実施支援を継続します。※※ ⇒自主防災組織との連携、支援を推進します。

5 地域づくりの方針図

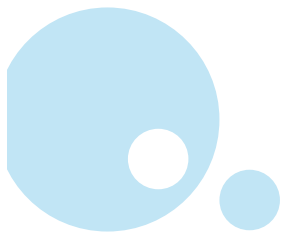
沓掛小学校区



沓掛小学校区

【地域全体】

-
- Legend:**
- モデル散歩コースをつくる（各町内区）
 - 蚊を完全になくす
 - 街中が花いっぱいになるとゴミは減るかも
 - 雑草をなくす（完全に）
 - 市内の巡回バスほしい
 - 路線バス増やして
 - モデル散歩コースをつくる
 - スマホゲーム等のコラボ地点を増やして
 - ゲームなどとのコラボ
 - 空家の有効活用
 - 移動商店
- Map Labels:**
- 若王子池でカヌー大会
 - ミニトレインのコースを作る
ブラレールのようなもの
 - キャンプ場をつくる
 - 宝探しやりたい（山で）
 - トレッキングコースの整備
 - 一番標高の高いところに展望台
 - 狭い道路の整備
 - 稲刈りツアー
季節ごとに違う花が一面に咲く
 - 森を使ったドローン大会
 - 犬の散歩道
 - 三軒山神社蔵書・資料の公開
 - 伊藤園村先生之碑
 - 藤田学園とタイアップ事業
 - 二軒山神社境内
 - 大岡ちびっ子広場
 - 遊具のある公園増やして
 - 助産師会館
 - 建設中の棟
 - 諏訪社跡地
 - コストコつくて
 - 稲刈りツアー
季節ごとに違う花が一面に咲く
 - 宿ふれあい五郎
 - (仮称)寺池公園
 - 吉池八幡宮
 - 吉池西門前
 - 吉池東門前
 - 太久保八幡社の隣
 - 歩道の整備
 - 境川沿い
散歩コース
 - 稲刈りツアー
季節ごとに違う花が一面に咲く
 - すかきやスーちゃんとのタイアップ事業
 - 歩道の整備
 - 交差点の渋滞
 - 杓掛に新しい駅をつくる ×3
 - くつかけ駅 ×3
 - 図書館新設して
(スマホ条例で本を読む)
 - 耕作放棄地の有効利用
 - 保育 + 介護施設つくて
 - 飲食店増やして
 - 中高生にやさしい飲食店、チェーン店
 - 稲刈りツアー
季節ごとに違う花が一面に咲く
 - 狭い道路の整備
 - 歩道の整備
歩道がガタガタなところ
- Scale:** 0 250 500 1,000 m
- Category Legend:**
- ①自然
 - ②公園歴史
 - ③交通・道路
 - ④開発・施設
 - ⑤地域・ルール



二村台・大宮・三崎 小学校区



豊明市の北西部に位置し、二村台・三崎町・間米町・西川町などが含まれ、藤田医科大学病院が立地します。

交通面では、中京競馬場前駅(1日あたり乗降客数約8千人/日)が近接し、(都)国道1号東線、(都)瀬戸大府東海線及び(都)桜ヶ丘沓掛線により市内各地との連絡が図られています。

区域内には、大規模団地である豊明団地が立地し、計画的に整備された住宅地として成熟した市街地が形成されており、現在、豊明間米南部地区において土地区画整理事業が進められています。

公共施設としては図書館をはじめ、唐竹小学校の跡施設を活用した豊明市共生交流プラザ「カラット」(歴史民俗資料室、子育て支援センター、児童発達支援センター等が併設された複合施設であり2022年5月に開設)が立地し、世代間交流や地域活動の拠点となっています。

自然環境面では、三崎水辺公園があり、三崎池周辺の水辺空間と緑地は市民の憩いの場として親しまれています。

歴史・文化面では、桶狭間の戦いに関連して死者の屍を集めて葬った国指定史跡「戦人塚」があり、戦国期の歴史を今に伝える重要な史跡があります。

写真

写真

写真

1 二村台・大宮・三崎小学校区の現状

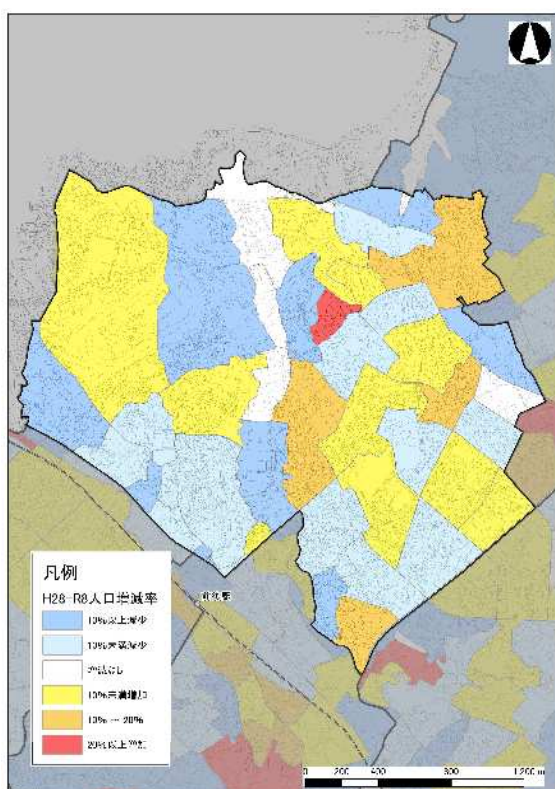
- ・ 2016 年と 2026 年の人口の変化をみると、(都)桜ヶ丘沓掛線沿道等を中心に増加している地区もみられますが、地域全体では人口が減少しており、市街化調整区域を中心に大きく減少しています。高齢人口割合は 25.0%と市平均 25.1%と同程度です。年少人口割合は 11.2%と市平均 10.9%と比較し、わずかに高い状況です。
- ・ 住宅地が主体の土地利用となっていますが、現在、土地区画整理事業が進む間米南部地区は、図面上は田畑となっています。三崎町や(都)国道 1 号東線、(都)瀬戸大府東海線及び(都)桜ヶ丘沓掛線の沿道に商業施設が多く立地しています。

表・地区の人口状況

総人口 (2016)	総人口 (2026)	人口増減数 (2016～2026)	高齢人口割合 (2026)	年少人口割合 (2026)
22,816	22,489	-327	25.0%	11.2%

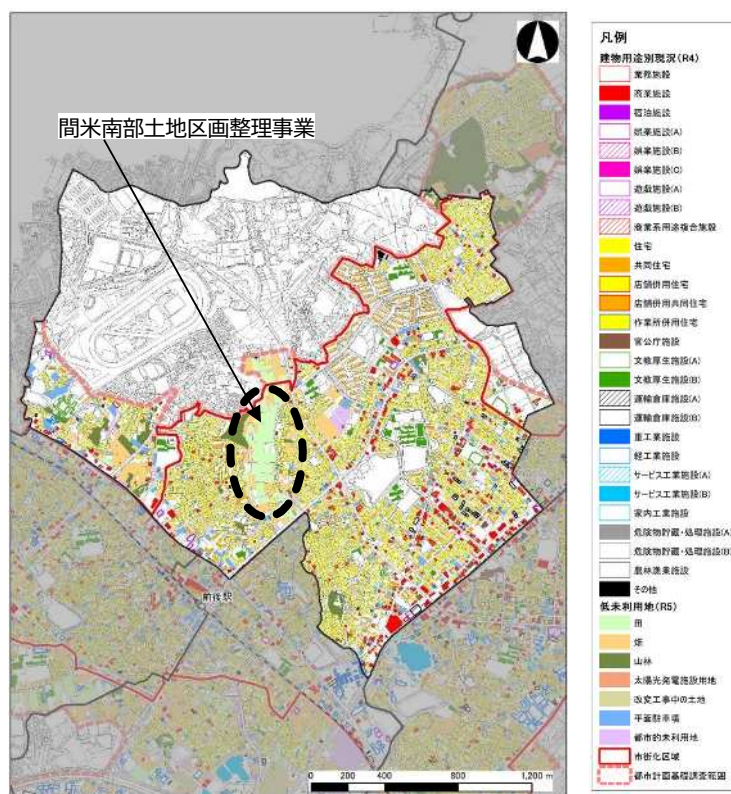
※高齢人口:65歳以上人口、年少人口0～14歳人口

図 人口増減(2016 年～2026 年)



資料：住民基本台帳

図 建物用途別現況(2022 年)・低未利用地(2023 年)



資料：都市計画基礎調査

2 将来都市構造における地域の位置づけ

- ・ 藤田医科大学病院周辺は、健康医療福祉拠点として位置づけられ、産学官連携による先端技術を活かした福祉・介護機能や健康増進機能の立地を誘導することで、次世代型の健康まちづくりを先導的に実践する拠点の形成を図ります。また、大学病院にアクセスする各バス路線の乗り換え利便性の向上等を図ることで、利用を促進して各路線の機能維持・強化を図るとともに、病院の利用者のみならず医師や技術者、大学の学生や研究者など様々な目的を持った人たちが広く利用することで、異業種交流や学術交流、病院や大学の利用者同士の交流をはじめ多様な交流が育まれる拠点の形成を図ります。
- ・ 三崎水辺公園は本市を特徴づける公園・緑地であり、市民とともに緑を育み、積極的な緑の保全、創出、活用を推進する緑の拠点として位置づけられています。

3 地域づくりの目標

まちづくりの目標	地域づくりの方向性
①住み続けたいと思える日常が快適で機能的な都市	・良好な居住環境の維持 ・居心地が良く歩きたくなる(ウォーカブルな)まちなかの形成 ・豊明団地の地域コミュニティの活性化
②交流が生まれ活力が持続する都市	・豊明市共生交流プラザ カラットや三崎水辺公園などの地域資源が連携した交流の創出
③災害に対し強くしなやかで、安全・安心に暮らせる都市	・今後、老朽化が予測される都市基盤の維持・管理 ・藤田医科大学病院周辺の防災対応性の強化 ・内水浸水被害軽減対策
④まちの魅力を発揮・向上させる質の高い緑づくり	・三崎水辺公園の活用

本地域は、健康医療福祉拠点として位置づけられた藤田医科大学病院や豊明市共生交流プラザカラット、三崎水辺公園などの多様な地域資源が立地する地域です。また、土地区画整理事業により整備された良好な居住環境を有する住宅地も広がっています。地域別ワークショップでは、地域のまちづくりの方向性として市民などが自主的に活動していくなど、「豊かで明るい未来に向けて『一人はみんなのために みんなはひとりのために』動いていこう！」が挙げられました。

こうした地域特性を踏まえ、医療・福祉・防災機能・自然などの地域資源の連携や、居心地が良く歩きたくなる(ウォーカブルな)まちなかの形成を図ることで、多様な交流をさらに広げていくこととし、以下の地域づくりの目標を設定します。

地域づくりの目標

誰もが健やかに暮らし、交流が広がるウォーカブルなまち

4 地域づくりの方針・主な取組

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
土地 利用	■(都)国道1号東線沿いの沿道住宅地区においては、周辺の住宅地の居住環境に配慮しながら、中高層住宅や様々な都市機能の立地を促進し、利便性の高い住宅地の形成を図り、まちなか居住を推進します。 ⇒店舗立地やにぎわいの創出に向け、空き家・空き店舗を含む既存ストックの有効活用を推進します。※※ ■高齢者の公共交通沿線への居住誘導や、必要となる介護施設の誘致などにより、高齢になっても安心して暮らせる住宅地の形成を図ります。 ■豊明団地のセンター地区等においては、近隣住民の暮らしやすさを確保するとともに、身近な生活圏を想定した商業地の維持を図ります。※ ⇒豊明団地では、UR 都市機構による住宅ストックの再生・リノベーションと連携して、若年世代の移住・定住を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。 ⇒買い物施設や子育て支援施設の立地を誘導します。 ■二村山緑地において、市民団体との協働により、緑地の保全活動を実施します。また、都市計画決定後30年以上に亘って未整備の状況が続いていることから、整備手法の見直しも含めて引き続き検討を行います。※ ⇒市民・市民団体との協働により保全活動を実施します。
都市 施設 整備	■(都)大根若王子線をはじめとする幹線道路網の形成にあたっては、現在の都市計画道路網の構築を進めるものとします。ただし、市街化調整区域などで長期間未着手となっている路線や区間については、必要に応じて計画の見直しを行います。 ⇒(都)大根若王子線と(都)平手豊明線の交差部分については、都市計画道路の整備や計画の一部見直しを図るとともに、景勝地である二村山緑地の環境や文化財の保全にも取り組めます。 ■豊明市共生交流プラザ カラットではアクセス性の向上などにより、多様な世代の利用を促進するとともに三崎水辺公園や唐竹公園など周辺施設との連携を図ります。※ ■名鉄バス、ひまわりバス、チョイソコ等の多様な公共交通が連携し、公共交通ネットワークを確保維持します。※

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
市街地整備	■藤田医科大学病院周辺においては、道路や公園等必要となる都市基盤施設の整備・改善を進めるとともに、健康医療福祉機能の強化に資する施設の立地誘導や防災機能の強化を図ります。※ ⇒産学官連携による健康まちづくりを先導的に実践するための場づくりを進めます。
歴史文化・景観	■戦人塚など貴重な歴史文化資源は都市の魅力となることから、これらの歴史文化資源の保存及び利活用を促進します。※
都市防災	■中長期的な河川改修や内水浸水対策などにより、浸水の発生抑制や浸水規模の低減を図ります。 ■安全性の高い市街地への居住誘導を図るとともに、土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域では、住宅等の新規立地を抑制します。 ■土砂災害特別警戒区域等に立地する住宅の住民に対して、重点的に災害リスクの周知を図るとともに、大雨の発生時には、早期の情報発信などにより、確実な避難につながる取組を進めます。 ■老朽住宅の更新や建築物の耐震化を促進するとともに、道路などの都市基盤施設の耐震化を進めることで、地震に脆弱な市街地の改善を図り、災害時における避難の実現性や緊急輸送機能の確保を図ります。 ■ため池の耐震化を進め、地震に伴う堤体の損傷や決壊による浸水被害の発生抑制を図ります。 ■市民に対して避難生活に備えた備蓄や非常時の持出品の準備を促すとともに、地震発生時の避難場所や避難経路の周知や防災訓練の実施などにより、市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進を図ります。
協働まちづくり	■豊明市共生交流プラザ カラットで行われている、市民主体の多様な活動の支援を継続します。※ ⇒とよあけ健康ウォーキングのウォーキング推進員への支援を継続します。 ⇒自主防災組織との連携、支援を推進します。

5 地域づくりの方針図

二村台・大宮・三崎小学校区

【全体】

- 高齢になっても安心して暮らせる住宅地の形成
- 市民主体の多様な活動支援
- 災害リスクの周知
- 建築物や都市基盤施設の耐震化
- 市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進
- 多様な公共交通の連携、ネットワークの確保維持

- 都市基盤施設の整備・改善、健康医療福祉機能・防災機能の強化

- 近隣住民の暮らしやすさの確保、買い物施設や子育て支援施設の立地誘導

- 市民団体との協働による緑地の保全活動

- ため池の耐震化による浸水被害の抑制

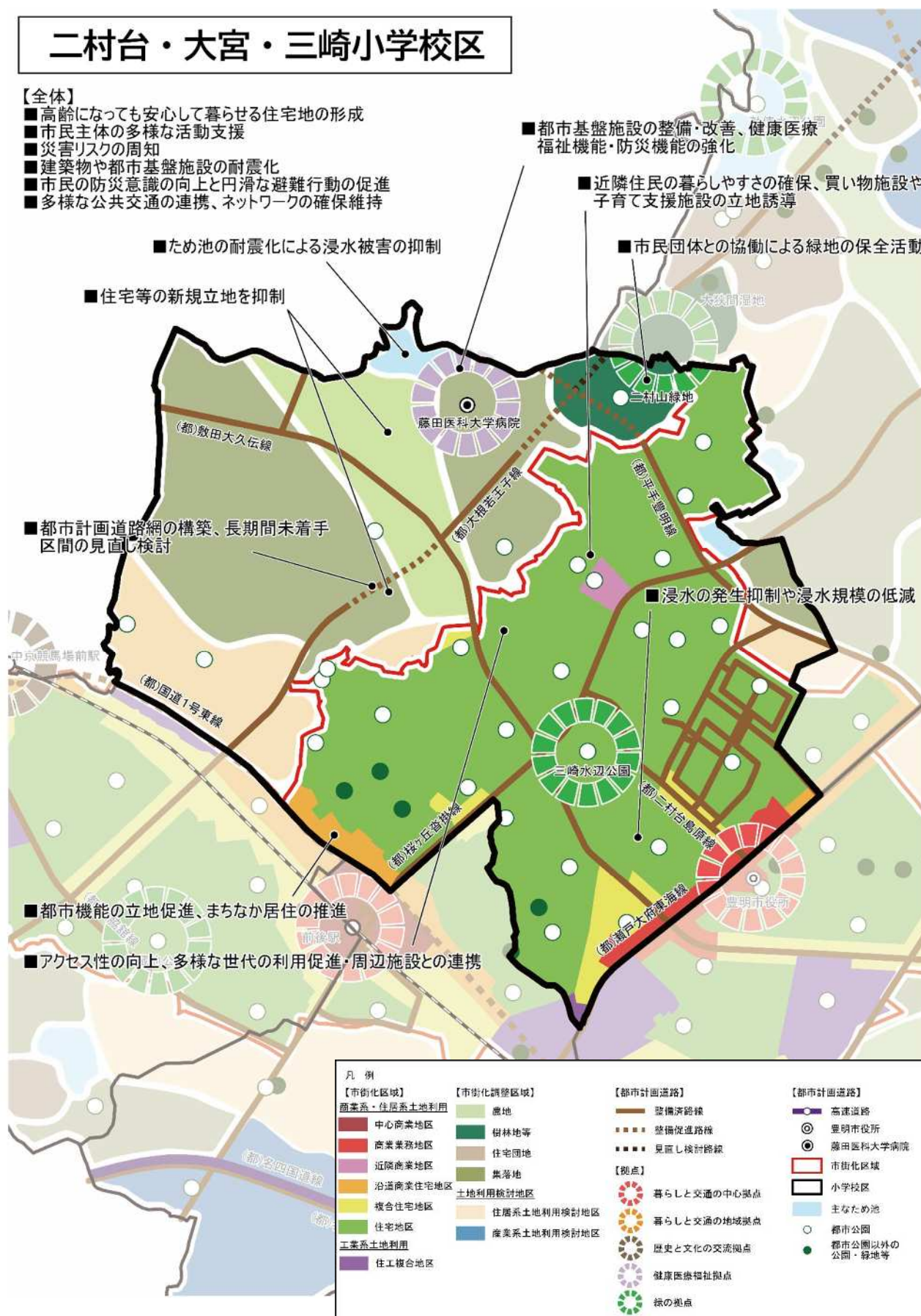
- 住宅等の新規立地を抑制

- 都市計画道路網の構築、長期間未着手区間の見直し検討

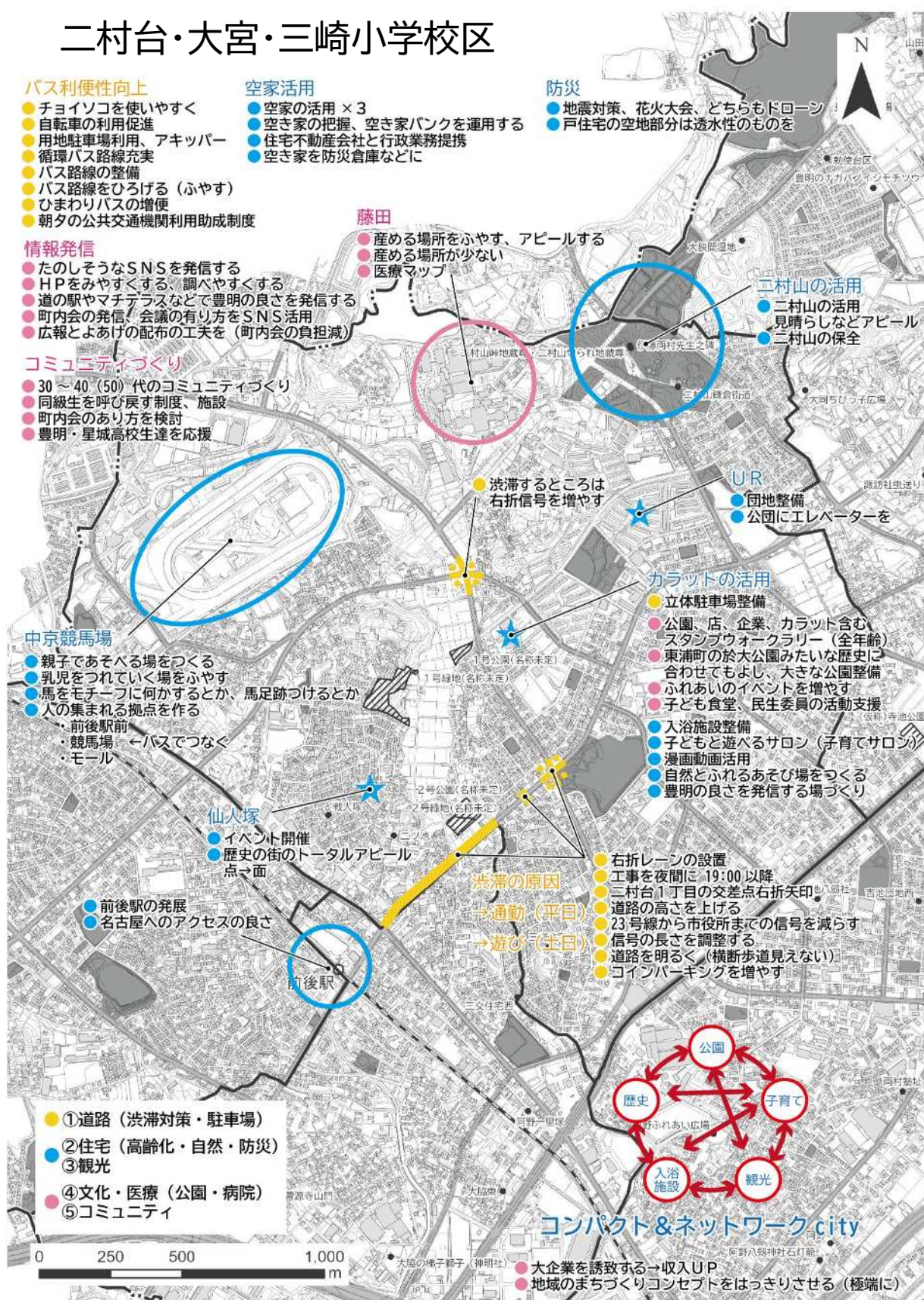
- 浸水の発生抑制や浸水規模の低減

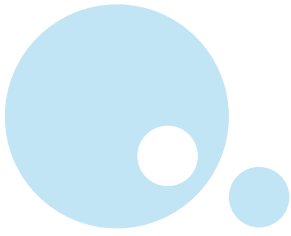
- 都市機能の立地促進、まちなか居住の推進

- アクセス性の向上、多様な世代の利用促進、周辺施設との連携



二村台・大宮・三崎小学校区





舘・栄小学校区



豊明市の南部に位置し、栄町・間米町・新栄町・前後町の一部を含み、大府市に隣接する広がりを持つ地域です。

交通面では、名鉄名古屋本線の前後駅及び中京競馬場前駅の南側に位置すると共に、(都)国道 1 号東線や(都)名四国道、(都)名豊道路などの広域幹線道路へのアクセスが良好なことから、栄町には名古屋短期大学などの教育機関やホンザキ株式会社などの工業系施設が立地し、住宅地と産業が混在する土地利用がみられます。

自然環境面では、大蔵池公園を中心に、水辺と緑が一体となった良好な景観が形成されており、散策や休息の場として市民に親しまれています。また、農地や緑地も残されており、開放的でゆとりある住環境を形成しています

歴史・文化面では、1560 年（永禄 3 年）に織田信長が今川義元を討ち取った「桶狭間の戦い」に関連した国指定史跡「桶狭間古戦場伝説地」があり、戦国期の歴史を今に伝えています。

写真



1 舘・栄小学校区の現状

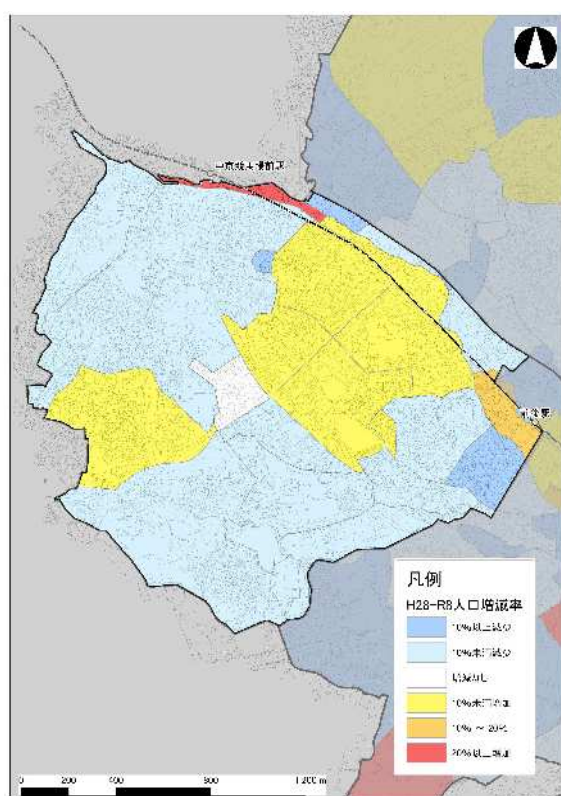
- ・ 2016 年と 2026 年の人口の変化をみると、概ね横ばいの状況ですが、前後駅周辺や(都)伊勢湾岸道路沿いの集落を中心に減少しています。高齢人口割合は 26.2%と市平均 25.1%と比較し、高い状況です。年少人口割合は 11.7%と市平均 10.9%と比較し、高い状況です。
- ・ 本地域は、住宅地が主体の土地利用となっていますが、駅周辺には平面駐車場がまとまってみられ、(都)国道 1 号東線の沿道や前後駅周辺などに商業施設の立地がみられます。

表・地区の人口状況

総人口 (2016)	総人口 (2026)	人口増減数 (2016～2026)	高齢人口割合 (2026)	年少人口割合 (2026)
17,797	17,759	-38	26.2%	11.7%

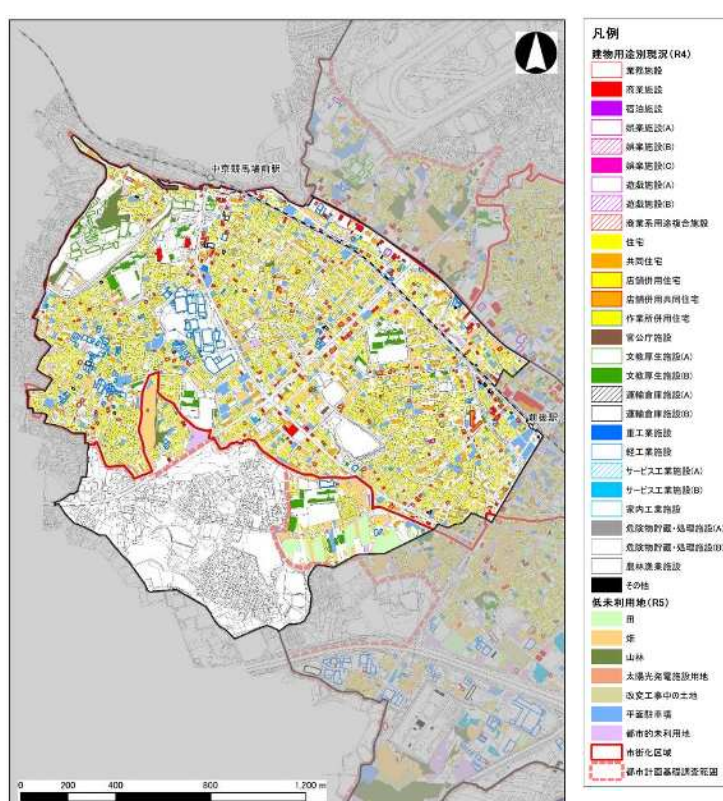
※高齢人口:65歳以上人口、年少人口0~14歳人口

図 人口増減(2016 年～2026 年)



資料：住民基本台帳

図 建物用途別現況（2022 年）・低未利用地（2023 年）



資料：都市計画基礎調査

2 将来都市構造における地域の位置づけ

- ・ 歴史と文化の交流拠点として、歴史・文化を広く発信し広域からも多くの人を訪れ、多様な交流が育まれる拠点の形成を図ります。また、地域拠点として、日常生活サービス施設等の立地を誘導し、地域住民の暮らしを支える拠点の形成を図ります。
- ・ 大蔵池公園は本市を特徴づける公園・緑地であり、市民とともに緑を育み、積極的な緑の保全、創出、活用を推進する緑の拠点として位置づけられています。

3 地域づくりの目標

まちづくりの目標	地域づくりの方向性
①住み続けたいと思える日常が快適で機能的な都市	・栄町での良好な市街地の形成 ・住工の用途が混在する地域での良好な居住環境の確保
②交流が生まれ活力が持続する都市	・桶狭間古戦場伝説地や中京競馬場などの地域資源の活用
③災害に対し強くしなやかで、安全・安心に暮らせる都市	・災害に脆弱な市街地の改善 ・日常的な交通安全性の確保
④まちの魅力を発揮・向上させる質の高い緑づくり	・拠点となる公園の魅力向上 ・桶狭間古戦場伝説地をはじめとした歴史文化資源の活用

本地域は、歴史と文化の交流拠点に位置づけた、中京競馬場前駅を中心とした桶狭間古戦場伝説地、中京競馬場が立地しており、交通便利性が高く、広域から人が訪れるポテンシャルのある地域です。地域別ワークショップでは、地域のまちづくりの方向性として「自然の中で子どもが育てやすくあいさつ、にぎわいのある街」が挙げられました。

こうした地域特性を踏まえ、桶狭間古戦場伝説地や中京競馬場などの歴史・交流資源を活用するとともに、良好な居住環境や交通安全性の確保を図りながら、地域内外の交流を促進していくこととし、以下の地域づくりの目標を設定します。

地域づくりの目標

訪れる魅力と暮らしの安心が共存するまち

4 地域づくりの方針・主な取組

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
土地利用	■(都) 国道1号東線沿いの沿道住宅地区においては、中高層住宅や様々な都市機能の立地を促進し、利便性の高い住宅地の形成を図り、まちなか居住を推進します。※ ⇒既存の店舗等の維持・利用増進に加え、コミュニティ活動の拠点づくりや地域の集会所等の活用、地域包括支援センターや地域医療連携センターの整備等を進めます。 ■高齢者の公共交通沿線への居住誘導や、必要となる介護施設の誘致などにより、高齢になっても安心して暮らせる住宅地の形成を図ります。 ■前後駅周辺では、駅前と連動した居心地がよく歩きたくなる(ウォーカブルな) まちなかの形成を図ります。 ⇒駅前と連動した居心地がよく歩きたくなる(ウォーカブルな) まちなかの形成のための土地利用を検討します。
都市施設整備	■(都) 国道1号東線をはじめとする幹線道路網の形成にあたっては、現在の都市計画道路網の構築を進めるものとします。 ⇒未整備区間の整備と整備済み区間の計画的な維持管理を関係機関に働きかけます。 ■ひまわりバスを運行し、各拠点及び主要施設間の移動ニーズに対応します。※
市街地整備	■中京競馬場前駅周辺において、道路や公園等必要となる都市基盤施設の整備・改善を進め、様々な交流が育まれる拠点の形成を図ります。※ ■栄町では、地域の特性にあった良好な市街地の形成を図ります。また、安全な市街地のあり方を検討します。※ ⇒建物の機能更新にあわせた狭あい道路の解消や地区計画制度の活用による道路・公園等の都市基盤施設の整備を進めます。

分野	■方針 ⇒主な取組 (地域別ワークショップで出た意見と関連する内容は※、ワークショップを受けて新たに検討を進める内容は※※)
歴史文化・景観	■桶狭間古戦場伝説地をはじめ、歴史文化資源が点在しています。これらの歴史文化資源の保存及び利活用を促進します。※ ⇒市内の歴史文化資源の保存及び活用を推進します。 ⇒とよあけ桶狭間ガイドボランティアによるガイドや観光イベント等でのPRにより、「桶狭間の戦いの地」としての周知を図ります。 ■西大根市民緑地では、地域特性や周辺環境を踏まえつつ、必要に応じて地域住民と連携し、まちなみのルールづくりなどを検討します。 ⇒地権者の協力のもと、市民緑地の指定を継続します。
都市防災	■安全性の高い市街地への居住誘導を図るとともに、土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域では、住宅等の新規立地を抑制します。 ■土砂災害特別警戒区域等に立地する住宅の住民に対して、重点的に災害リスクの周知を図るとともに、大雨の発生時には、早期の情報発信などにより、確実な避難につながる取組を進めます。 ■老朽住宅の更新や建築物の耐震化を促進するとともに、道路などの都市基盤施設の耐震化を進めることで、地震に脆弱な市街地の改善を図り、災害時における避難の実現性や緊急輸送機能の確保を図ります。 ■ため池の耐震化を進め、地震に伴う堤体の損傷や決壊による浸水被害の発生抑制を図ります。 ■市民に対して避難生活に備えた備蓄や非常時の持出品の準備を促すとともに、地震発生時の避難場所や避難経路の周知や防災訓練の実施などにより、市民の防災意識の向上と円滑な避難行動の促進を図ります。※ ⇒地域ごとでの防災訓練の実施・支援を推進します。※※
協働まちづくり	■前後駅周辺では、市民や民間事業者による自発的なまちづくりの取組を支援します。 ⇒市民や民間事業者による社会実験等を支援します。また、エリアマネジメントやエリアプラットフォーム等を活用し、エリアの将来像や実施方策の検討を進めます。 ⇒とよあけ健康ウォーキングのウォーキング推進員への支援を継続します。 ⇒自主防災組織との連携、支援を推進します。 ⇒地域ごとでの防災訓練の実施・支援を推進します。※※

5 地域づくりの方針図



(参考) 地域別ワークショップ結果のまとめ

館・栄小学校区

【地域全体】

- 防災、ホシザキ・学校との連携
- 防災放送を整備する
- 大地震があっても水が出る場所をつくる
(生活上困らない範囲の中に)
- スーパーを誘致する
- ひまわりバス、ゆつくりと早く

コミュニティ等

- 住民が一体となるイベントを構想する
- 校区エリアで楽しめるイベント、防災訓練
- 町内会に入ってよかったと思えることをやる
- 地域で、町内会で、みんなであいさつしあえる、顔を知っている

住宅

- 空家、空地の活用がうまくすすむ市のルールづくり
- 空家バンク
- 庭がある家
- 古い建物の更新

